

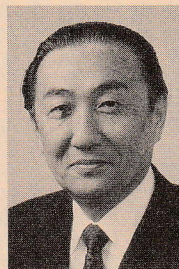
幽玄

題字
高秀秀信横浜市長

横浜能楽連盟
会報 No.15
平成10年7月11日

横浜能楽連盟創立五十周年に当って

会長 新堀 豊彦



わが横浜能楽連盟が、第二次大戦後いち早く、昭和二十三年七月十一日（一九四八）に、「横浜能楽謡曲連盟」として発足してから、今年の七月十一日で満五十年を経過したのであります。

既に五十年前を知る人は殆どなく、四十五回の歴史を数える「横浜能」については、すべての記録が保存されており、第四十回横浜能の時に、「横浜能の歴史」という小冊子を、当連盟の編集で発刊いたしておりますが、連盟そのものの生い立ちについての記録や歴史は残されていないため、創設五十年の区切りもすっかり忘れ去られようとしていたのです。

五十年、半世紀は、しかし大

きな重味であります。この機会に、私たちは先人の残した業績を振り返り、キチンと後世へ残す必要があるのではないかと、う思いが高まり、本年は五十年記念事業として、三大企画を打ちたて、実行に移すことにいたしました。

第一は、我々連盟のアマチュアによる「能楽大会」、即ち従来の「五流合同謡曲大会」の拡大大集大成として、素人の演能の実現であります。まさに結成されたその日である七月十一日・十二日の二日間、にわたって、「清経」「猩々」「羽衣」「紅葉狩」の四番が横浜能楽堂で舞われることになりました。

第二は、「第四十六回横浜能」を記念能と位置づけ、宝生宗家の「安宅」、名手友枝昭世師の「隅田川」の二曲二番を、十一月七日・八日の二日間にわたって演じて頂きます。

この二つの事業は、まさに横

浜能楽堂の存在なくして考えられない所ですが、我々が果たした役割の記録をはじめ、昭和二十年代の先輩が、焼け跡の中から伝統文化の灯を消さずにがんばって来られた歴史、さらに古くは、明治大正期における横浜の能楽謡曲界の先進的活躍ぶりを、残された資料を収集し、出来るだけ詳細に書きとどめようとする出版の企画が、第三の事業であります。幸いに「かなしん出版」がこの企画に賛同され、全面的協力が得られますので、連盟としては、過去にない「横浜と能」のかかわりあいを一冊の書物として世に問うことが出来るのであります。

十一月の発刊を目指して現在編纂が進められておりますが、皆様の御協力によって順調に運んでおりますことをこの機会に御報告申し上げます。（出版並びに五十年記念パーティ、十一月八日・ホテル開洋亭の予定）

今回、明治大正期の資料がい

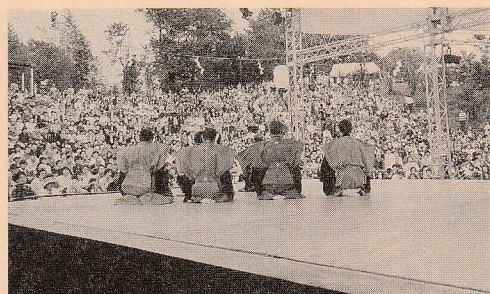
我々は、これら先人の積み重ねてこられた偉大な足跡を大切にしながら、「温故知新」「能に果てあるべからず」の精神で今後ともがんばりたいと存じます。五十年の歴史が無駄にならぬよう、二十一世紀へ向けてのたゆみない前進を誓い、横浜の能楽謡曲の発展を心から願っています。

逆向きに進んできた

都筑金春會
代表 表 二宮 倫行

当会は、九十五年秋の第一回つづきの丘の薪能のあと、委員として参加された青木氏の発案で、観客としてきた人たちに、よびかけて、高砂やくらい謡えるようにしようということが発足しました。今は物好き十数人が集まって、近くのせせらぎ公園の古民家などを会場にして、月二回土曜日の午後、入門程度の謡と希望者には創作仕舞「人生五十年」を私が講習して

月謝はなしで、月二千元（事務費千円と積立千円）の会費でやっていますが、月謝のかわりに薪能や能楽講座の仕事を、会員には手伝ってもらっています。かえって皆さんには迷惑かも知れませんが、去る五月五日にも三回目の薪能を開いたばかりの、



第一回つづきの丘薪能で神歌

都筑中央公園の野外ステージでやりましたが、じっくり味わおうと思っているのに、始まるまでいろいろ用事があってそれどころじゃなかった、と御不満の方もあられたかと思えます。まことに相済みません。おかしな会にはいつてしまったということであきらめてください。

会の運営は、謡や仕舞の道を極めるということではなく、季節やイベントに合わせて能を軸にして、なんだかんだと楽しもうと考えて、一応皆さんの承諾を得て進めています。謡初めや納会にかこつけて飲んでダベるのはこの会でもやって、どこの会の方々もお好きだと思いますが、薪能を裏側から楽しむとか、せせらぎ公園古民家開所

式に出演するとかは、ほかでは経験できませんよとごまかして手伝ってもらって、でも案外会員諸氏も楽しんでくれてるかなと思います。しかし、この新春に五流の謡会で初めて能楽堂の舞台を踏んだときの皆さんの感激ぶりからすると、やはり私の企画する楽しみ方は亜流なのかなと反省もしています。生まれも進み方も逆ですね。

掲示しました写真は、このあいの薪能で神歌をやったさった連盟の観世流の方々の後ろ姿です。出演協力ありがとうございます。

まだよちよち歩きの会ですが、能を楽しむ同好の士として、末永くおつきあいいただけますよう、どうぞよろしく願います。

なお、仕舞も「つづき仕舞の会」という名で、こちらは本職の先生(本田光洋師)にきてもらって稽古をやっています。御同様にお願いします。

五十周年を迎えて

常務理事 田所 義男

昭和二十八年十一月に、横浜能楽謡曲連盟という名称で、中村桃山氏を会長として第一回を開催、各流宗家のご協力の下、

本年五十周年を迎えられました事は大慶に存じます。歴代の会長様並びに多くの役員(逝去された方々を含め)の皆様のご尽力、併せて各流宗家の深いご理解を忘れる事は出来ません。特に横浜市、神奈川県として不可能視されておりました観世、宝生、喜多、梅若、金春と、昭和六十二年十月(新堀会長の時)金剛流もご参加頂き、今日に至りました。この間昭和四十三年十一月、横浜市文化賞受賞の栄を受け、続いて安藤為治教育文化財団より第一回目の配分を頂き、連盟の基礎は固められてまいりました。横浜能楽堂も横浜市長高秀秀信様によって完成されました。この好機に連盟の法人化を計る方向に前進したいと念願致しております。

横浜能の歴史(第三十号の番組をご参照下さい)

入会のお勧め 横浜能楽連盟
当連盟は能楽愛好者が参加できる行事を年間二回開催しています。

あなたも横浜能楽連盟の会員になって横浜能楽堂の本舞台で稽古の成果を披露してみませんか。本紙末尾の連絡先へ電話してみましよう。各流の役員に連絡がとれます。

副島為安さんを偲んで

金春流 川端よし子



平成十年四月十四日、長らく横浜能楽連盟の為に尽力なされた副島為安さんがお亡くなりになりました。私にとっては古河電工横浜電線製作所での先輩でもあり、金春流シテ方、故守屋与四巳先生とご子息泰利先生のもとで、長年お稽古を励んできたお仲間でもありました。

会社が同じといっても職場は全然別ですから、お知り合いになっただけは、古河電工の社員に守屋先生が謡の稽古をしてくださる様になったことからでした。もう四十年程も前のことで、副島さんはそれよりも大分以前から謡をなさっていたらしい様です。

その頃のお稽古は会社の昼休みの時間でしたが、検査部門の課長さんだった副島さんの肝いりで、会社の応接室を利用させて頂きました。副島さんご自身はご多忙でもあったのでしよう。滅多にはおいでになられなかつた。

たのですが、工場のことですから午後の始業の五分前にはベルが鳴り、稽古はそれで終わるのですが、私達にとっては副島さんのおかげで毎日三十分位でしたが、謡の時間を持つ事が出来たのです。その頃の方々は、今ほとんどいなくなりましたが、思えば本当にありがたく感謝すべき思い出です。やがて私達は守屋先生のお宅に通って、個人的にお稽古をして頂く様になりました。持ち前のきまじめさ、熱心さで副島さんの型付にはぎっしりと書き込みが入っていたのをよく覚えています。副島さんはお能を楽しむというよりは、月例の謡会の運営など企画等がお好きの様でした。「謡のふるさとを尋ねて」と題して、関西方面へも先生も一緒に有志で旅をさせて頂いたことも二、三回ありました。なつかしい思い出です。

最後のお仕事になった横浜能五十年の歩みの記録や調査は地道で、こまやかな労を惜しまない副島さんでなければ出来なかったことでしょう。入院中も同僚は各方面に必要な連絡は欠かさず、特に連盟のことは最後まで気にかけておいでの様でした。ベッドの上にもお仕事を持ち込まれ、色々やっていらしたと聞き、本当に感銘いたしました。

た。謡にも舞いにも独特な味わいをお持ちでした。あのお声にも、おだやかなお人柄にも、もう接する事は出来なくなってしまうが、ご家族の皆様に見守られながら、ご自分の仕事にこれほどまでに情熱をつぎ込まれ旅立たれた副島さんは、本当にご立派でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

能面に魅せられて

面友会 会長 渡辺 松霜

能面に魅せられ、面打師を志してから、いつの間にか三十年の歳月が流れ、私の主宰する会(面友会)の能面展も早いもので十七回を数えるところとなりました。当初、数名で始めたこの会も、今では六十名を超える大所帯となりました。長年、指物師として木に携わってまいりましたので、木を見る目や刃物を研ぐ事に関してはプロでしたが、私が面打ちを始めた頃は、師もなく解説書も能面展も少ない時でしたから、遅々たる歩みながらも試行錯誤を繰り返して研究したものです。近頃では、初心者にも楽しみながら能面を打てるように解説された本や、能面集なども数多く出版されていますし、各地で能面展が盛ん

に開催されていて、古面に接する機会も多くなってきました。

昨今、カルチャースクールでも能楽関係の教室を持っているところが多く、仕舞や謡の教室では、プロの能楽師の方々から手ほどきを受けることが可能になっていますし、能面教室では、能面制作の基礎から指導を受けることも出来、今まで少々敷居の高かった分野の稽古も、身近にあるカルチャースクールで気軽に習えるようになったことで、底辺が広がって来たように思います。各地で見られる新能も、能楽が広く一般市民に開放され、愛好者を増やす要因となったのでしょうか。又、昔と違い、生活様式も文化的になり、女性も時間的な余裕を持てるようになったせいも、カルチャースクールは女性でもっていいと言っても過言ではないくらいに各教室とも女性であふれ、活況を呈しています。私も自分の工房の他に二ヶ所のカルチャースクールの能面教室を受け持っておりますが、「能面を打つ」と言いますと、どうしても男性向きの趣味と思われがちですが、二ヶ所とも女性が生徒の半数以上を占めています。教室に通って来る方々は、初心者から十年以上続けている方まで、皆大変熱心で、時間を忘れて稽古に励んでおります。

たとえ舞台で使われずに家に飾る能面であっても、完成した時の喜びは格別で、それも能面を打つ楽しみ方の一つであるとは思っています。能面は演者が舞台上で使用してはじめて生きるものであって、ただ壁に掛けて楽しむだけの能面は真の能面ではないと言って憚らない方もおられますが、そのような機会に浴することが出来るのは、ごく限られた方であるというのが現状であります。

そんな中で、過日、越前池田新作能面公募展なるものがありました。絵画・版画・彫刻などの分野は、各地で公募展があり作品を発表する機会も多くありますが、能面に関しては、その性質上（能面制作は、本面の型を忠実に写すことが重要であるため、そこに独創性を見出せないことや、作品を審査する人が極めて少ないことなど）公募展などは皆無でありました。

今回の公募展では、大賞受賞作品は、一流の能楽師によって舞台で使われるという特典があり、素人で能面を打っている人達にとっては、画期的な企画でした。初めての公募展であるにも拘わらず、全国から約六百点の応募があったそうで、主催者側は十分な手応えを感じたことでありましょう。このような企

画は、誰にでも平等に挑戦する機会を与えてくれるものであり、制作意欲を掻き立てられるものだと思いますので、今後も各分野で、このような企画が続いて行く事を望んでおります。

世阿弥の言葉に、「命には終わりがあり、能には果てある可からず」とあるように、今日の能楽ブームが、一時的なものではなく、若い人達の間にも末長く浸透し続けることを願っております。

会員の声

成せば成る

喜多流 吉見 一彦
洋謡会会長

横浜能楽連盟創立五十周年を迎えるに際して、先ずはお慶び申し上げますと共に、その発展・繁栄に日夜にわたりご苦労なさいました諸先輩に対し、心から敬意を表する者です。

私がこの世界に足を踏み入れましてから早いもので十数年の歳月が、あっという間に過ぎ去りました。

現浦部海謡会会長から「君、謡曲をやらんかね」と囲碁を打ちながら誘われ、「お願いします」と快諾し現在に至っております。

最初に教わったのが「一角仙

人」でした。洋謡会の忘年会を「竹むら」で催し、大先輩の多数いらっしやる中で調子はずれの「一角仙人」を謡い、拍手喝采をいただいた事がつい昨日の様に思われます。

その後、特訓に特訓を重ねてまいりました。友枝昭世先生からお墨付？をいただき、結婚式の披露宴では「一角仙人」を謡う事にしています。

未だ若輩の身ではありますが、謡曲の世界に入って思う事は、人生の大先輩と語り合い、重みのある一言一言から勉強させていただいているという事です。

終生、自分の趣味として続けて行く所存です。横浜能楽連盟のますますのご発展と、皆様方のご健勝をお祈りしながら微力ですが陰ながらお手伝いしたいと思っております。

舞い終えて

宝生流 秋山 尚

小生におきましては一昨年還暦を迎え、更には永年の会社生活も定年で卒業し、現在はお陰様で各方面の先輩友人に囲まれ第二の人生を穏やかに過ごさせて頂いております。

趣味の能楽も四年前に能「清経」を舞ったことで一区切りと思っておりましたが、再度、師

の勧めもあり、昨秋十一月八日に水道橋能楽堂にて、能「東北」を勤めました。本来、素人の我々では一生に一度舞えば本懐と言われているのに、二度も舞う機会に恵まれました。「東北」の曲は本三番目物（鬘物Ⅱ女物）といわれ幽玄の最たるもので、いかに優雅に美しく舞うのが至上とされています。幸いに大きなミスもなく無難に舞い終えてほっとしております。演

能時間、一時間四十分の長丁場を乗り切るには気力、体力、知力の三要素が必要であり、これを養うのは永年の稽古の積み重ねが大きく物を言うわけで、正に「継続は力なり」の名言通りであります。又、この舞台に用いました面の「増女」は先師より譲り受けたもので、今回が初舞台となり、面に魂を込める意味でもありました。終演後、皆様より美しく、可愛い、見栄えする面であったとの評判を賜り、小生はもとより面もさぞかし喜



んでくれたものと思います。尚、舞台での感想を申しますと、中入り前は唐織の装束なので裾捌きが難しく、足の運びが思うにまかせない事と、呼び掛けから橋掛かりに進み舞台常座まで謡いながらの運びとなり、一連の動作は素人の悲しさでかなり息切れがする。ロング掛合い所まで来ると、呼吸も整い動きも軽やかになった。中入り後は装束が緋大口、長絹に変わり足運びは楽になり舞い易い。更にクセ、序之舞、キリになると仕舞や舞囃子で幾度か経験しているの、余裕をもって常の通りに動める事ができた。止め拍手を踏んだ瞬間、充実した気持ちが一杯で能楽を嗜む者として、これ以上の幸福はないものと実感する。我が師、並びに関係職分に感謝しつつ幕入りとなった。

舞い終えて

運びも軽し

橋掛り

横浜能と私

面打 岩崎 久人

「今はその心算も無いからまたの機会にしてくれ」、故桜間金太郎先生との出会いが横浜能の時でした。当時、私は能も観た事もなく、桜間金太郎と言う名も知らずにいた頃の事です。

自分で打った面がどの程度の物かわからず、横浜能楽連盟に電話をした。当時の会長は庄司さん、副会長が小久保さんでした。小久保さんと連絡がとれて、金春流をされていた関係で、金太郎先生を紹介されたのです。以後金太郎先生が亡くなられるまでお付き合いをさせて戴きました。横浜能での金春流は、故守屋与四巳先生がシテを舞われていたので、自然と守屋先生とお付き合いも始まり、金太郎先生同様に守屋先生にも亡くなられるまでのほとんどの能に、私の打った面を使って戴きました。「面を打っているなら謡や仕舞の一番ぐらいは出来た方が貴方の為になる」と言われ、花咲かば……から始めたのが二十数年前になる。



お陰で守屋先生がお元氣だった平成四年に、目黒の喜多能楽堂で能「羽衣」を自作の面で舞い、昨年十一月には「守屋先生を偲ぶ会」として、能「弱法師」を舞わせて戴きました。自分の打った面で能を舞うなどは当時は思っても見なかった事です。

横浜能での思い出も多く、名人と言われた先代梅若六郎先生や高橋進先生の舞台も拝見する事が出来た。横浜にも能楽堂が出来て、館長に山崎有一郎先生が就任され、横浜の住人として能面「小面」一面を寄贈させて戴きました。

私の面打の人生もこの横浜能から始まったと言っても過言では無く、年に一度の「面の会」の展示会も今年で十八回を数え、そのほとんどの会を横浜能と同時開催して来ました。今年も同時期に開催する事になっている。これから先も面打の立場から横浜能を観続けていたいと思っている。

能楽堂だより

横浜能楽堂では、以下の通り公演・講座を開催します。

「第十回普及公演」七月二十六日(日)午後二時。能「大江山」(金剛流) 金剛永謙、狂言「石

神」(和泉流)。正面三千五百円、脇正面三千円、中正面・二階二千五百円。六月二十一日(日)から発売。

「第十一回普及公演」八月三十日(日)午後二時。狂言「文相撲」(大蔵流) 茂山千作、「鏡男」(大蔵流) 茂山七五三、「蝸牛」(大蔵流) 茂山千五郎。正面三千五百円、脇正面三千円、中正面・二階二千五百円。七月十九日(日)から発売。

「第十二回普及公演」九月二十五日(金)午後六時三十分。能「橋弁慶」(観世流) 田辺竹生、狂言「魚説法」(和泉流) 野村万之丞。正面三千五百円、脇正面三千円、中正面・二階二千五百円。八月二十二日(土)から発売。

「第十三回普及公演」十月三十一日(土)午後二時。能「鉄輪」(喜多流) 香川靖嗣、狂言「空腕」(大蔵流) 茂山忠三郎。正面三千五百円、脇正面三千円、中正面・二階二千五百円。九月二十日(日)から発売。

いずれも午後二時から会場。電話予約は午後二時三十分から。

「講座 初めて知る能」

・狂言の世界」

。第一回「能のイロハ」八月九日(日) 講師・山崎有一郎。第二回「能・狂言の楽しみ方」八月十六日(日) 講師・山崎有一郎。第三回「能の構成」八月

二十三日(日) 講師・山崎有一郎、講師(実演)・観世恭秀。受講料三千円。往復はがきで「初めて知る能・狂言の世界」受講希望」と明記し、住所・氏名・電話番号・年齢を書き添えのうえ、横浜能楽堂までお送り下さい。七月二十三日消印有効。応募多数の場合は抽選。

編集後記

連盟五十周年記念事業の諸準備に役員諸氏が奮闘中です。編集子も能楽大会出演の稽古が大詰めとなり、梅雨空の今日少々早い申し合せを終えてきて本紙記念号の校正をしています。

今号から観世流のMS氏が編集に加わり紙面の充実に動めます。読者の投稿を待っています。幽玄原稿と表記して左記へ

(MY記)

横浜能楽連盟 連絡先

●文書郵送又はFAXの場合

〒233-0013 横浜港南区丸山台二丁目

二九一七 新堀方

FAX 〇四五-八四四-一九〇三

●電話の場合

横浜能楽堂 佐藤正美

TEL 〇四五-二六三-三〇五〇